

# Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局本部

## 目 次

〈理事会報告 (2015 年 10 月 25 日)〉

- I. 各種委員会の活動について
- II. 第 26 回大会 (昭和女子大学) について
- III. 次期大会について
- IV. 30 周年記念事業について
- V. その他
- VI. CiNii から J-STAGE への移行について
- VII. 事務局報告
- VIII. その他

〈研究・広報委員会からのお知らせ-第 7 回研究集会〉

〈事務局からのお知らせ〉

---

---

## 理事会報告 (2015 年 10 月 25 日)

---

---

定例理事会が 10 月 25 日 (日) 10 時 00 分から 12 時まで、お茶の水女子大学 文教育学部 1 号館第一会議室にて開催されました。事務局 3 名を含む理事 22 名、および前回大会校 (昭和女子大学) より押谷由夫会員、緩利誠会員が出席しました。長尾代表理事の挨拶に続いて以下の議事を審議しました。

### ■ 審議事項

#### I 各種委員会の活動について

---

##### 1. 紀要編集委員会 (研究奨励賞審査委員会含む)

橋本委員長より、資料 1 に基づき、報告および依頼 (図書紹介、研究奨励賞、大会報告、海外カリキュラム研究情報、学会彙報) がなされた。カリキュラム研究第 25 号について、前回理事会の議論・承認を受け、特集論文を掲載する。今後の特集論文の組み方については要検討事項とする。また、研究集会・秋のセミナーの報告の取り扱いについて検討の要

望がだされた。

## 2. 国際交流委員会

的場委員長より、資料2に基づき、第27回大会（香川大学教育学部附属高松小学校）課題研究の内容候補、カリキュラム研究情報、30周年記念事業への提案の方針について報告された。

## 3. 研究・広報委員会

天笠委員長より、資料3に基づき、第27回大会課題研究、研究集会、秋のセミナー、学会誌における特集について報告された。特集論文については審議の結果、第25号紀要において試行的に実施することが決定された。課題研究として依頼・発表・質疑を通じたことをもって質の担保とし、研究・広報委員会が原稿執筆依頼を行う。提出原稿の内容検討についても同委員会が内容検討の責任をもつ。紀要編集委員会は形式のチェックを行う。掲載論文については査読付論文と位置づける。特集は1課題分とする（1課題分程度の紙幅を用意する）。

# II 第26回大会（昭和女子大学）について

## 1. 大会収支報告書

押谷大会実行委員長より、資料4に基づき、第26回大会の収支報告がなされた。松下事務局より、大会収支は事前に国際文献社にてチェック、通帳解約（解約経費は事務局負担）済みであることが補足された。

日本カリキュラム学会第26回(昭和女子大学)大会 収支報告書

I. 収入		(単位:円)	
費目	金額	内訳	備考
学会補助金	650,000		
広告収入	330,000	30,000円×3社(一藝社、東信堂、放送大学教育振興会) 20,000円×12社(学文社、風間書房、北大路書房、教育調査研究所、 溪水社、廣濟堂あかつき、図書文化社、日本文教出版、不二出版、 教育情報出版[保育出版]、光村図書、有斐閣)	
参加費	777,000	一般会員:3,000円×174人(うち、団体会員構成員:12名)=522,000円 学生会員:2,000円×19人=38,000円 臨時会員:3,500円×62人=217,000円	会員参加者総数:255名 (加えて、公開シンポジウムのみの参加者約50名)
懇親会費	260,000	4,000円×65人=260,000円	
雑収入	1,500	1,500円×1人	発表要旨集録販売
計	2,018,500		

(単位:円)

費目	金額	内訳	備考
会場費	161,632		
印刷製本費	300,556	大会プログラム(800部)=99,200円 発表要旨集録(350部)=80,650円 封筒(1000枚)=24,000円 バッグ(400個)=55,600円 ネームカード(350枚)=14,350円 看板・掲示物等=8,856円 資料等印刷=17,900円	
懇親会費	410,000	4,000円×100人分+追加発注(10,000円)=410,000円	
通信費	121,116	大会案内関係=25,554円 広告依頼関係=5,640円 大会プログラム関係=82,159円 発表要旨集録関係(出版社)=6,000円 その他=1,763円	
消耗品費	330,263	文房具、印刷用紙、トナー等	
会議費	0		
事務局員費	496,600	スタッフ謝金=471,000円、宿泊費=25,600円	
運営諸費	194,985	業務委託(大会用ホームページ作成・運営・更新、公開シンポジウムのチラシ作成・広報、その他資料作成等)=184,985円 発表要旨集録印刷ミスによる広告掲載費の一部返金=10,000円	有斐閣に返金
雑費	3,348	振込手数料、両替手数料	
計	2,018,500		

### Ⅲ. 収支差額

項目	金額
収入の部	2,018,500
支出の部	2,018,500
収支差額	0

2015年9月11日

## 2. 『教育学研究』大会報告案

押谷大会実行委員長より、資料5により報告案が提案され、確認・承認された。

### 日本カリキュラム学会第26回大会報告

日本カリキュラム学会第26回大会は、7月3日～5日(3日は理事会)にわたり昭和女子大学において開催された。会員等の正式な参加者数は255名、公開シンポジウムのみ参加者を含めると300名近くになり、充実した大会となった。

自由研究発表は、4日・5日に行われ、14部会で48件の発表があった。各部会3～4件の発表となり、どの部会も熱心な議論が展開された。

課題研究は3つが取り上げられた。いずれも教育課程にかかわる教育改革に関する今日的なテーマが扱われた。課題研究Ⅰは、『「資質・能力」の育成をどう考えるか』(コーディネーター:村川雅弘(鳴門教育大学)・浅沼茂(東京学芸大学)・藤川聡(北海道教育大学)・西岡加名恵(京都大学)、司会:村川雅弘・西岡加名恵)をテーマに、白水始(国立教育政策研究所)・石井英真(京都大学)・赤羽寿夫(東京学芸大学附属国際中等教育学校)から提案がなされた。次期学習指導要領の全面改訂に向けて大きなテーマとなっている「資質・能力」の育成に関して、その意図することや具体的取組等について多様な意見交換がなされた。

課題研究Ⅱは「現代社会における教科成立の根拠を問う」(コーディネーター:中野和光(美

作大学)・的場正美(東海学園大学)、司会:澤田稔(上智大学)・子安潤(愛知教育大学)をテーマに、無藤隆(白梅学園大学)・竹川慎哉(愛知教育大学)・的場正美(東海学園大学)から提案があった。「特別の教科 道徳」の設置をはじめとして、さらに新教科の設置が考えられている中、教科成立の根拠について、教科の本質論や外国の事例等を交えた深まりのある討論がなされた。

課題研究 III は「現代日本の教育課程政策における政治・行政・経営をめぐる諸課題—教育課程基準に関する中央教育審議会の審議過程を中心として—」(コーディネーター/司会:小泉祥一(白鷗大学)・石田有記(市川市教育委員会)、指定討論者:安彦忠彦(神奈川大学特別招聘教授))をテーマに、合田哲雄(文部科学省初等中等教育局教育課程課長)・天笠茂(千葉大学)・中野和光(美作大学)・嶺井正也(専修大学)から提案があった。昨年度の課題研究を継承して設けられたものであり、さらに次期学習指導要領改訂に向けての審議過程をふまえた、文科省担当者、審議会委員、研究者それぞれの立場からの提案がなされ、要望も含めて熱心な議論が展開された。

また、公開シンポジウムでは「『特別の教科 道徳』の設置で道徳教育や教育課程がどう変わるのか」(コーディネーター/司会:富士原紀絵(お茶の水女子大学)・押谷由夫(昭和女子大学)、指定討論者:田中統治(放送大学))をテーマに、西野真由美(国立教育政策研究所)・谷田増幸(兵庫教育大学)・吉富芳正(明星大学)から提案があった。特別の教科 道徳」の設置に積極的な立場からの提案に対して、賛否両論が飛び交う学会ならではの活発な議論が展開された。

(昭和女子大学・押谷由夫)

### Ⅲ 次期大会について

香川大学教育学部附属高松小学校・黒田会員より、資料6に基づき、日程・公開シンポジウムを中心に提案された。大会1日目、開催時間を30分早め午前中に授業公開・シンポジウムを実施する(課題研究は午後実施)ことが承認された。

課題研究の内容・担当理事について、資料2・資料3・別紙に基づき審議・了承され、最終案については、3月の理事会で決定することとなった。課題研究Ⅰ. アクティブ・ラーニング(藤川理事・西岡理事)、Ⅱ. 18歳選挙権(的場理事・片上理事)、Ⅲ. 教育課程政策(小泉理事・石田理事)、Ⅳ. PISA調査(村川理事・澤田理事)

## IV 30周年記念事業について

---

長尾代表理事より、資料7に基づき、2020年に迎える30周年を記念し、2018年度大会を目途に記念出版事業を実施することが提案され、大筋合意された。記念出版編集委員会を、各委員会から2～3名推薦の上、長尾代表理事の決定により、別途設置する。

## V その他

---

- ・長尾代表理事より、2017年度大会校決定の必要性・緊急性が説明され、協力依頼がなされた。
- ・研究集会3月19日(土)(暫定)

## ■ 報告事項

## VI CiNii から J-STAGE への移行について

---

松下事務局長から、資料8に基づき、J-STAGEへの移行が完了したことが報告された。

## VII 事務局報告

---

### 1. 会員現況報告

(1) 会員現況概要(2015年10月19日時点)

■ 会員総数 703名(一般会員 600名、学生会員 82名、団体会員 7件)

※連絡先不明者 5名、会員一時資格停止者 30名を含む。

【内訳】新規入会者:16名、退会者:2名、一時停止資格者:30名、連絡先不明者:5名

注:前回は 689名(一般会員 600名、学生会員 82名、団体会員 7件)

昨年度同時期は 702名(一般会員 610名、学生会員 84名、団体会員 8件)

■ 会費納入率(2015年10月15日時点)

2015年度:完納 529名 未納 144名 計 673名 78.6%

※ 連絡先不明者 5名含む、会員一時資格停止者 30名除く。

・新規入会者（2015年6月20日～10月15日）16名

	入会年月日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2015/6/29	柏木 智子	大阪国際大学	一般	事務局
2	2015/6/30	白井 克尚	愛知東邦大学	一般	事務局
3	2015/7/6	長田 恵理子	※所属非公開希望	一般	長尾彰夫
4	2015/7/14	齋藤 嘉則	※所属非公開希望	一般	事務局
5	2015/7/21	細矢 智寛	筑波大学	学生	樋口直宏
6	2015/7/22	松井 孝彦	愛知教育大学	一般	事務局
7	2015/7/30	石川 照子	兵庫県立西宮香風高等学校	学生	事務局
8	2015/8/18	丹羽 雅之	※所属非公開希望	一般	事務局
9	2015/8/31	橋本 雅子	龍谷大学	一般	事務局
10	2015/8/31	大貫 守	※所属非公開希望	学生	西岡加名恵
11	2015/9/5	田島 宏一	東京学芸大学附属国際中等教育学校	一般	事務局
12	2015/9/14	恩知 忠司	大阪教育大学	一般	事務局
13	2015/9/15	中園 有希	学習院大学	一般	事務局
14	2015/9/25	鈴木 学	東北大学	学生	事務局
15	2015/10/2	小野瀬 剛志	仙台青葉学院短期大学	一般	事務局
16	2015/10/10	斉藤 和彦	大和大学	一般	事務局

・退会者（2015年6月23～10月18日）2名

	退会日	氏名	所属	区分
1	2015/8/11	北田 薫	真和中学・高等学校	一般
2	2015/9/7	田中 保樹	文部科学省 国立教育政策研究所 教職課程研究センター 研究開発部	一般

2. 寄贈図書等一覧（「事務局からのお知らせ」欄に後掲載）

## Ⅷ その他

---

\*次回理事会

日時：2016年3月6日（日） 13:00～15:00

会場：お茶の水女子大学（文教育学部1号館第I会議室）

---

---

## 研究・広報委員会からのお知らせ-第7回研究集会(第二次案内)

---

---

下記のとおり、第7回研究集会を開催いたします。ふるってご参加ください。

本集会は、会員外にも公開しています。ご関心のある方々へのお声がけをお願いいたします。

**日時：2016年3月19日(土) 13:30-16:30**

**場所：京都教育大学 共通講義棟(F棟) 1階 F12講義室**

(〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 京都教育大学)

**参加費：無料**

**発表内容：**

■ **細尾萌子先生(近畿大学・講師)**

「フランスの学力評価から学ぶ

—コンピテンシー・アプローチの可能性と課題—

わが国では、知識の伝達から、実践的な資質・能力の育成・評価への転換が謳われており、コンピテンシーへの関心が高まっています。フランスでは、すでに1990年代に、コンピテンシーに基づく学力評価が広がり始め、現在では、コンピテンシー・アプローチの可能性と課題が明らかになりつつあります。

本発表では、フランスの中等教育における学力評価の展開を検討し、コンピテンシー・アプローチに関する日本への示唆について、ご報告いたします。

■ **黒田拓志先生(香川大学教育学部附属高松小学校・教諭)**

「分かち合い、共に未来を創造する子どもの育成

—2領域カリキュラムによる主体的、共感・協同的、創造的な学びの実現—

現在、文部科学大臣の諮問や教育課程企画特別部会の「論点整理」より、「資質・能力」、「アクティブ・ラーニング」、「カリキュラム・マネジメント」という言葉が注目されています。本校では、3年前に文部科学省の研究開発学校の指定を受け、いち早く資質・能力につながる主体的、協同的、創造的な学びの在り方と、それを実現するカリキュラム開発に着手してきました。

本発表では、その研究プロセスを提示するとともに、新カリキュラム構想から明らかになった成果と課題について、ご報告いたします。

**世話人・コーディネーター：小泉祥一(白鷗大学教育学部教授)**

**黒田拓志(香川大学教育学部附属高松小学校教諭)**

問い合わせ先：白鷗大学教育学部 小泉研究室

電話：0285-22-9875（直通、ファックス兼用）

E-mail：[koizumi@fc.hakuoh.ac.jp](mailto:koizumi@fc.hakuoh.ac.jp)

#### 交通アクセス案内

J R JR奈良線：「JR藤森駅」（じえいあーるふじのもり）下車 徒歩約3分

京阪電車 京阪本線：「墨染駅」（すみぞめ）下車 徒歩約7分

#### 大学周辺地図



---

---

## 事務局からのお知らせ

---

---

### 1. 寄贈図書一覧(2015年6月23日～2015年10月20日到着分)

	著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
1	橋本美保・田中智志	大正新教育の思想—生命の躍動—	東信堂	2015/7/3	2015/7/13
2	日本国際理解教育学会 (編著)	国際理解教育ハンドブック —グローバルシティズンシップを育む—	明石書店	2015/9/4	2015/6/13
3	古川 治・矢野裕俊・ 前迫孝憲(編著)	教職をめざす人のための教育課程論	北大路書 房	2015/9/10	2015/10/11
4	大村敦志・横田光平・ 久保野恵美子	子ども法	有斐閣	2015/9/15	2015/10/16

### 2. 平成 27 年度（2015 年度）分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の方は、納入をお願いします。12月24日時点での**2015年度**会費の納入率は**81.7%**です。納入促進に会員のみなさまのご協力をよろしくごお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく（株）国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

（年会費：一般 8,000 円、学生 5,000 円、団体 10,000 円）

**【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】**

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社内  
日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : [jscs-post@bunken.co.jp](mailto:jscs-post@bunken.co.jp)

**【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】**

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町  
京都大学高等教育研究開発推進センター 松下佳代気付  
日本カリキュラム学会事務局

E-mail : [jscs@nifty.com](mailto:jscs@nifty.com)

**【 学会ホームページ 】**

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>